

機関リポジトリ構築を経験して(2)

著者	上田 直人
ページ	1-41
発行年	2008-07-24
URL	http://hdl.handle.net/10114/1921

機関リポジトリ構築を経験して(2)

平成20年度 学術ポータル担当者研修

発表資料 法政大学図書館 上田直人

名古屋大学会場:2008年7月24日(木)

NII会場 :2008年8月28日(木)

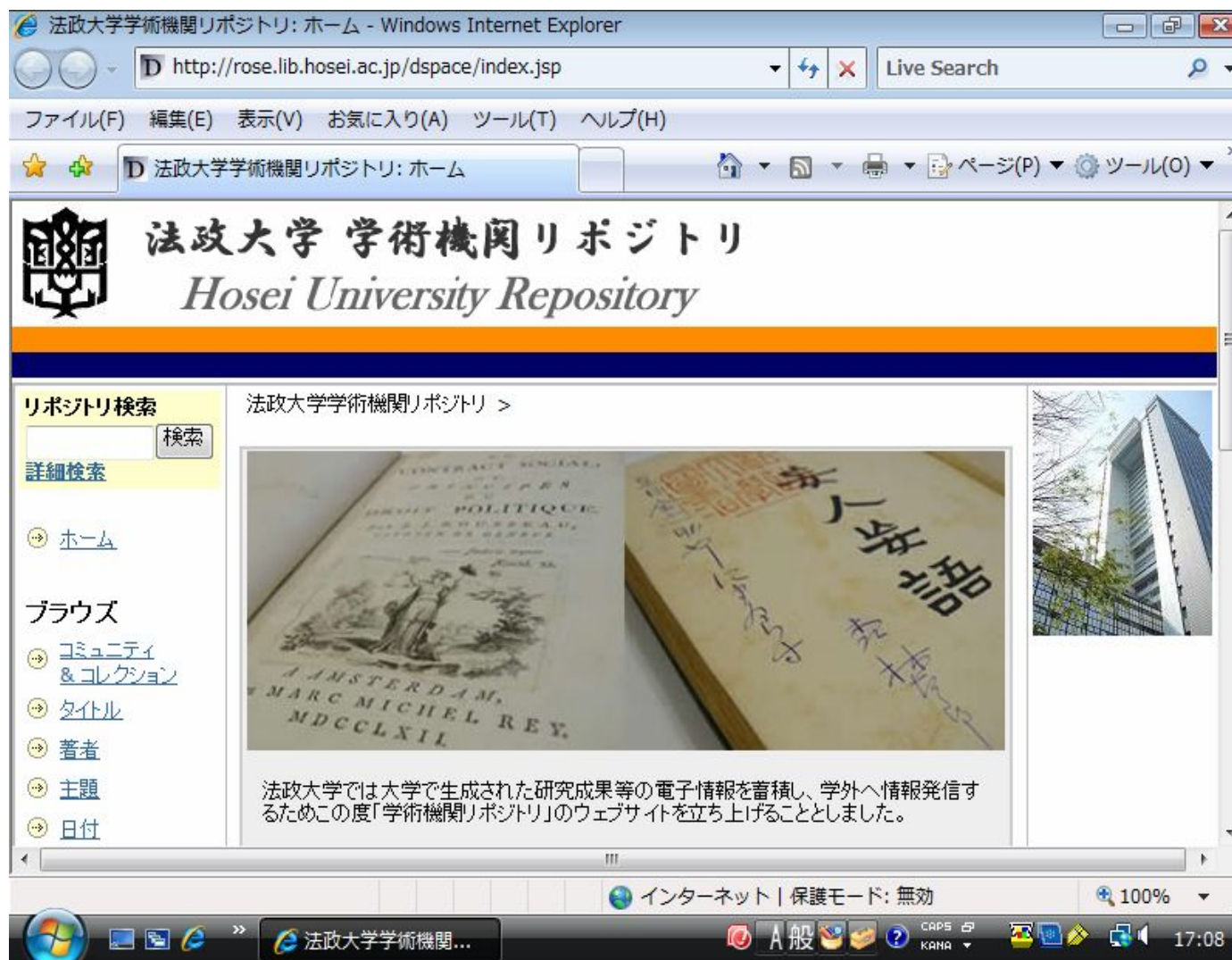



本日本話したいこと

- 法政大学でのIRの立ち上げ・コンテンツ収集
- 梅文書の電子化・IR登録
- 法政大学IRの問題点
- 私立大学IRアンケート調査
- まとめ

法政大学学術機関リポジトリ

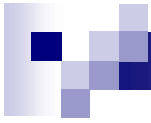
DSpace Ver.1.4.2 / junii2 対応 / Handle system 採用






機関リポジトリのサーバ環境

- DSpace (Ver.1.4.2)サーバ
PRIMERGY TX200 S2
147GB×3(RAID5) Xeon(R) 3EGHz
- 公開用(リバースproxy)サーバ
PRIMERGY TX150 S4
73GB×2(RAID1)
- サーバソフトウェア
Apache 2.0.55
Java SE 1.4.2
Apache Ant 1.6.5
PostgreSQL 7.4.2
Tomcat 4.1.31



機関リポジトリ立ち上げ（2006年度）




機関リポジトリ立ち上げのスケジュール(1)

■ CSI委託事業(2006年度)への採択

- a. CSI委託事業公募の情報入手 2006年 4月
- b. 委託事業に応募するか検討 4月～5月
⇒ 学内合意を得るには、日程が超タイト・・・
- c. 委託事業応募決定・応募 2006年 5月
- d. 2006年度委託事業採択 同年7月
- e. 委託契約・事業開始 同年8月

.....


(その後、2007年度委託事業にも採択)



機関リポジトリ立ち上げのスケジュール(2)

■ システムの導入

- a. 仕様検討: DSpaceか図書館システム (iLisSurf) か
⇒ DSpaceに決定 2006年 8月
- b. 業者見積、納入業者の決定 同年 8月
- c. システム機器納入、セットアップ 同年 9月
- d. システム(サーバ)部分稼動 同年10月
- e. システムのトレーニング 同年10月
内容) システムの全般的知識、メタデータの作成方法、
コンテンツの登録方法
- f. 公開サーバの稼動 2007年 4月



機関リポジトリ立ち上げのスケジュール(3)

■ 機関リポジトリ運営・運用委員会の立ち上げ

a. 機関リポジトリ運営委員会

第1回 2006年10月に開催、

第2回 2007年2月に開催

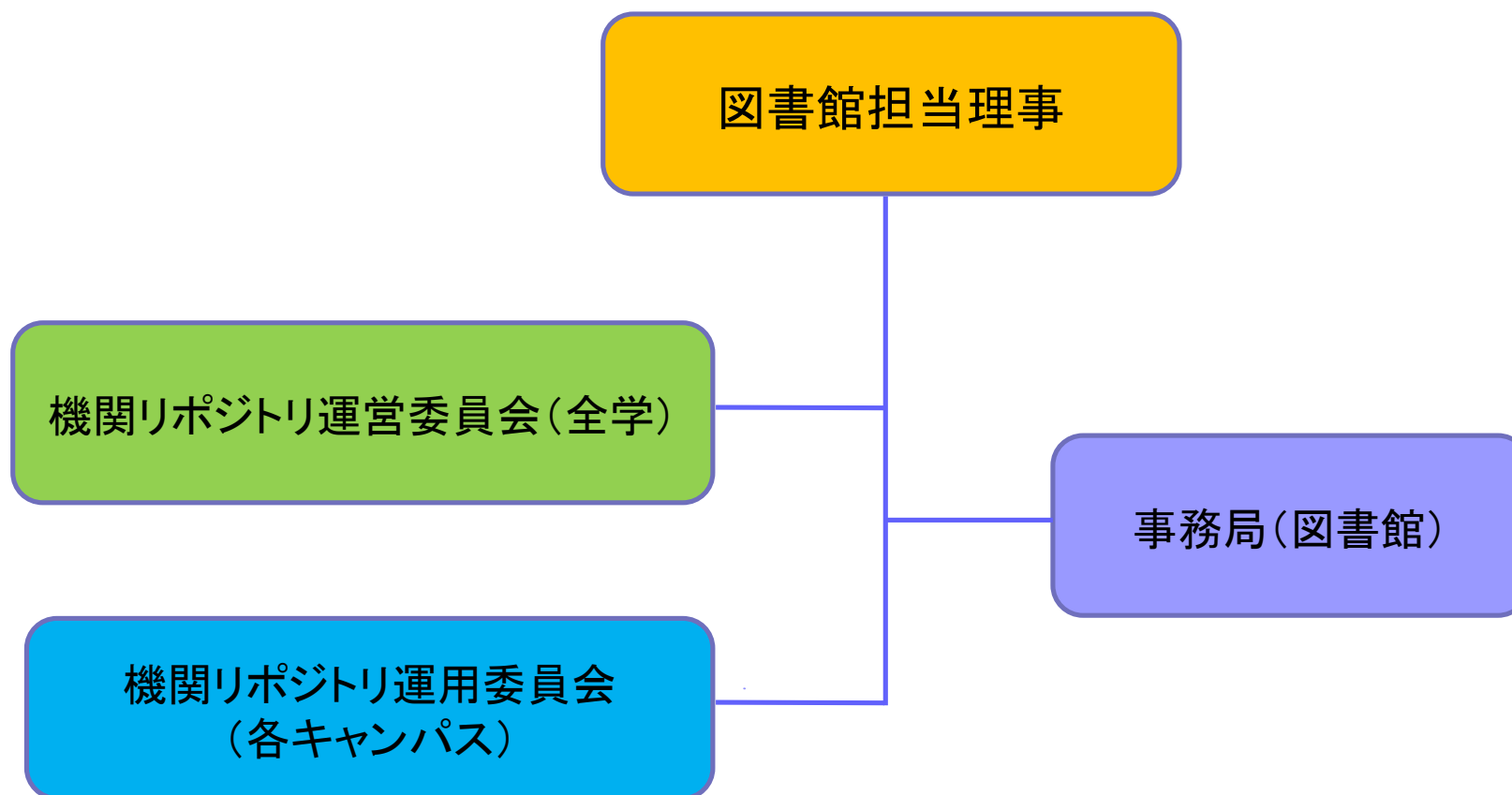
委員の選出を、各キャンパス・研究所・関連部局に依頼
データ収集と登録に関するガイドライン、著作権対策、
登録促進のインセンティブ、広報活動等を検討


b. 機関リポジトリ運用委員会

運営委員会の下部機関として3キャンパスに設置

2006年11月末から12月初めにかけて、各キャンパスで
委員会を開催

機関リポジトリの運用実施体制（2006.10～）

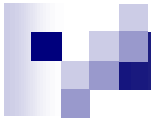




機関リポジトリ立ち上げのスケジュール(4)

■ 学内広報の展開

- a. 学部長会議、大学院委員会でリポジトリの趣旨説明をし、紀要や論文等の登録の依頼を行なう
(2006年秋～)
- b. 各キャンパスで教員・学内研究者を対象とした説明会を開催
(2006年12月7日)
※村上祐子先生(当時NII)を招き、遠隔会議システムで実施
- c. リーフレット、ポスター、うちわなどグッズ作成
(2006年～2007年)



コンテンツの収集・登録について



コンテンツの収集・登録(1)

■ 初期コンテンツの収集・登録

a. 初期コンテンツの提供者を模索

⇒ 運営委員、運用委員を中心に働きかけ

b. 最初は紀要を中心に各キャンパスで取り組み開始

⇒ しかし包括的な許諾はなかなか得られない

c. 学位論文 ⇒ 教員のガードは意外に固い

d. 貴重資料のコンテンツ化

⇒ 予算化されていないことがネック



コンテンツの収集・登録(2)

■ 紀要に重点を置いたコンテンツの収集・登録

a. 学術雑誌論文を集めることは困難

⇒ マーケティング的に問題あったか
研究者の関心低い

b. 当面は紀要中心の取り組みを行う

⇒ しかし個別著者への許諾確認作業が必要
登録は遅々として進まず

c. 発行母体の理解も必ずしも十分得られない

⇒ エンバーゴの設定などで対応



コンテンツの収集・登録(3)

■ 貴重資料のコンテンツ化

a. 2007年度の予算化も不調（時代錯誤な要求？）

⇒ 大きな予算をかける電子化は無理と認識

b. 従前の電子化構想を引き継ぐ形で企画

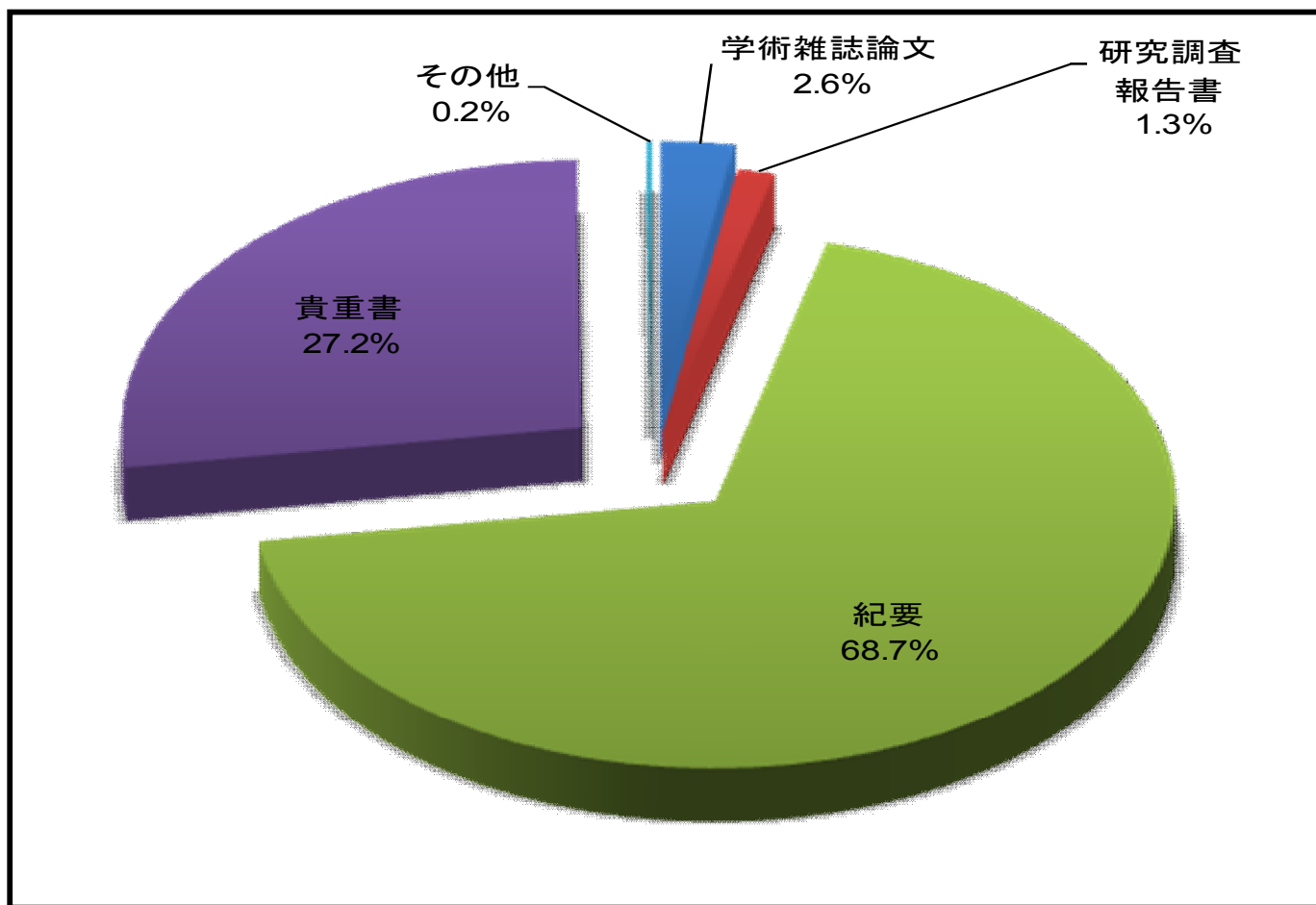
⇒ 予算がつかず中途半端になっていた

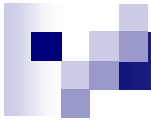
プロジェクトを再生することで活路を探る

c. 「梅文書」の電子化

⇒ 図書館の情報発信事業の一環に位置づけ

コンテンツの現状（2008年3月末、1100件）





梅文書の電子化、IR登録

梅文書の電子化とIR登録(1)

■ 梅謙次郎とは

1860(万延元)年、松江市生まれ。
司法省法学校を卒業後、文部省の国費留学生としてフランスのリヨン大学に学び1890(明治23)年に帰国。その年から東京帝国大学と和仏法律学校(法政大学)で教鞭を執り、1899(明治32)年には和仏法律学校の校長職に就いた。その後1910(明治43)年韓国ソウルの地で没するまで終生その地位にあった。その間、民法起草委員として明治の新法典整備に中心的役割を果たした。その業績から「日本民法の父」と呼ばれる。



梅謙次郎博士写真 (1909年5月撮影)

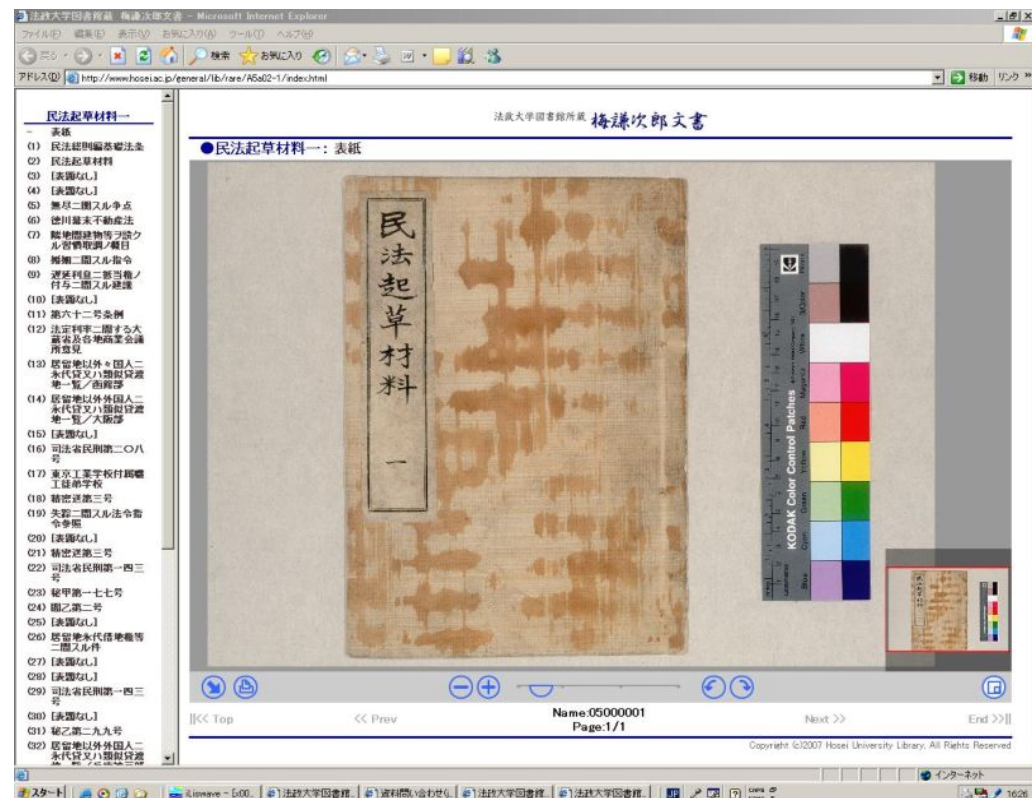
梅文書の電子化とIR登録(2)

■ 梅謙次郎文書とは

梅の没時に手元にあった文書で、70冊からなり大半は和綴じの冊子。1989年に解体しマイクロ撮影され、現在貴重書庫内に保管されている。通常の閲覧は副本(マイクロフィッシュ)で行う措置がとられている。

このうち「立法関係文書」として以下のものが電子化された。

- ・ 民法起草材料一～三
- ・ 土地建物貸借ノ敷金ニ関スル慣例取調書 ・ 民法修正案参考書
- ・ 民法中修正案 ・ 民法原案
- ・ 民法理由書



法政大学図書館梅謙次郎文書 電子版 2007年公開



梅文書の電子化とIR登録(3)

■ なぜ「梅文書」か

- a. 1998年度から2000年度まで、当時貴重資料のデジタル化事業として取り組まれていた
⇒ しかしその後「放置」されていた
- b. 従前の電子化構想を引き継ぐ形で企画
⇒ 予算・人員の手当てがつかず中途半端になっていたプロジェクトを再生し、IRの活路を探る
- c. イメージ情報の公開と、テキスト情報の公開を両輪として展開する
⇒ コア業務「情報発信」の一環に位置づけ



梅文書の電子化とIR登録(4)

■ 電子化公開部分

- a. 業者によるデータ再整備 (TIFFからJPEGへ)
⇒ 最低限の予算で実現 (3164コマ)
- b. 図書館ホームページでの公開
⇒ 見栄えの良いビューアーを確保
- c. 解題情報など
⇒ 冊子体目録作成時 (2000年度) の情報を活用

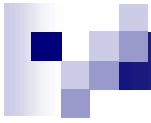
参考) <http://www.hosei.ac.jp/general/lib/rare/Top.html>



梅文書の電子化とIR登録(5)

■ 機関リポジトリ登録部分

- a. TIFFからJPEG化したものを、さらにPDF化
⇒ 文書の各単位ごとに、PDFとしてまとめていった
- b. 「メタデータ」は？・・・
⇒ 「専門的」な検討は後回しとして、当座可能な対応を
- c. ホームページの情報との関連付けは
⇒ 今後の課題
例えば索引情報として活用できるのか



本学リポジトリの問題点



本学リポジトリの問題点(1)

■ 何が出来ているか

- a. 組織 ⇒ 全学的組織 + 運用事務局(図書館)
- b. システム ⇒ DSpaceを導入しある程度実績を積む
- c. コンテンツ
⇒ 紀要論文を中心に、雑誌論文、貴重資料など
1300件程 (2008年7月現在)

※いわゆる「日の丸弁当」状態



本学リポジトリの問題点(2)

■ 何が出来ていないのか

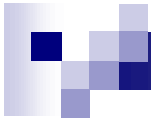
- a. 組織 ⇒ 図書館内で担当者が分散
リーダーシップが全く発揮されない
- b. システム ⇒ 業者任せで、一切手を加えられない
- c. コンテンツ
⇒ 各コンテンツとも今後大きな展開は見込めない
すでにマンネリ化？
セルフアーカイブは夢のまた夢・・・
- d. その他
⇒ 外部との連携、部内での研究機能を持ってない



本学リポジトリの問題点(3)

■ 今後展開すべき方向は

- a. 組織 ⇒ 担当者のモチベーションをどう上げるか
リーダーシップをどう発揮するか
- b. システム ⇒ 出来ることはまだまだあるのでは
OPACリンク、RSS、カバーページ、ブログ？
利用(アクセス・ダウンロード)統計ランキング…
- c. コンテンツ ⇒ 教員へ積極的な営業活動が必須
打って出るスタイルで…リエゾンライブラリアン??
- d. その他
⇒ 外部との連携 「この研修をきっかけに頑張ります！」



私立大学 機関リポジトリアンケート調査



私立大学機関リポジトリアンケート調査

■ 概要

a. 対象

平成17年度～19年度までの
「最先端学術情報基盤(CSI)委託事業」採択大学
計13大学中、図書館が関わっている12大学に依頼
⇒ 回答9大学（回答率75%）

b. 期間 2008年6月30日～7月5日、メールで依頼

c. 内容

機関リポジトリの担当者、コンテンツ、目的
意思決定の理由とその主体、構築時の予算(概略)



機関リポジトリの担当職員の数（9大学回答）

	専任	非専任	委託
統括	18	4	2
システム	11	4	2
コンテンツ収集	21	5	0
登録	11	11	4
著作権	10	5	1
全体	36	15	3



機関リポジトリ担当者のスキル（9大学回答）

	基礎知識	専門知識
Unix / Linux	9	2
Java / Perl	4	2
XML	6	2

リポジトリのコンテンツ対象（9大学回答）

	主な対象	可能なら	対象外
学術雑誌	2	6	1
紀要等	9	0	0
研究報告書	4	5	0
学位論文	5	4	0
学習成果物	1	1	7
OCW他	0	8	1
貴重書等	3	4	2
計	24	28	11

リポジトリ構築の目的（9大学回答）

	非常に 重要	やや重要	どちらでも ない	重要で ない
学術情報流通	4	3	2	0
研究成果発信	9	0	0	0
教育成果公開	3	5	1	0
紀要公開	6	1	1	1
貴重資料公開	3	3	0	3
計	25	12	4	4

リポジトリ構築を決めた理由（9大学回答）

	非常に 重要	やや重要	どちらでも ない	重要で ない
雑誌価格高騰	1	2	5	1
社会的責任	7	2	0	0
図書館新機能	6	2	1	0
NII委託応募	4	5	0	0
紀要コスト削減	0	3	6	0
計	18	14	12	1

意思決定の主体（9大学回答）

	非常に 重要	やや 重要	どちらで もない	重要で ない	その他
理事・経営者	5	2	2	0	0
図書館長	6	2	1	0	0
図書館委員会	5	2	1	0	1
部外の委員会	2	4	1	2	0
図書館管理職	5	3	1	0	0
計	23	13	6	2	1




立ち上げ時の予算（8大学回答）

予算額	500万円 以下	501～ 1000万円	1001～ 2000万円	2001万円 以上
大学数	4	2	0	2



これからリポジトリを構築する大学への アドバイス（１）

- あまり特別な意識をしない方がよい
- 身の丈に合ったプロジェクトとして、まず始めることが大事
- 出来るだけ多くの人数で取り組み、情報を共有する体制が必要



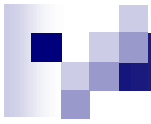
これからリポジトリを構築する大学への アドバイス（２）

- コンテンツ収集、著作権ポリシー調査、メタデータ作成など、いろいろ勉強が必要
- コンテンツの量を考えるなら、業務委託による専従職員確保が有効
- 担当者のモチベーションの維持が重要



これからリポジトリを構築する大学への アドバイス（3）

- 学内合意を得ることが重要（トップダウンも必要）
- リポジトリの構築・運用は既存の図書館業務をベースにできるかがカギ
- 内外のシステムとの連携がポイント
- 先行大学の事例を参考にすることが重要




最後にまとめの一言



私立大学図書館にとって IRを構築する意味は何か(問い)

- 大学の使命は何か
研究型大学か 教育型大学か
- 教員・研究者は何を求めているか
- 学生は何を求めているのか
- 社会は何を求めているのか
- 大学の事業なのか、図書館の事業なのか



私立大学図書館にとって IRを構築する意味は何か(答え)

- 教育型大学のIRなら何が可能か
⇒ コンテンツに拘らない柔軟性が必要
- 教育活動と連携したコンテンツ形成
⇒ 教育成果、OCW、パスファインダー
- 大学の中で図書館のプレゼンスを向上させる
⇒ 大学の中身(コンテンツ)にあった役割を果たす
- 大学を越えた連携が重要
⇒ DRFを模範に、私大としての連携は可能か



ご清聴ありがとうございました

ご意見ご質問は下記まで
naoto.ueda.75@adm.hosei.ac.jp

